

徳間書店25周年記念作品

徳間コミュニケーションズ第一回作品

チェスカの銃弾がキミの心臓を
ブチ抜く暴力と愛のサスペンス
ダイナミック・ジューゴ!



場面毎にあなたの予想を裏切る
スリリングに甘悲しく迫るヤマネ演出!

6月2日(土曜)より松竹系一斉公開!

特別ご鑑賞券 ¥1000 (当日・一般 ¥1300の処) ●お申し込みは松竹レジャー
エージェンシー 5418143へ

丸の内松竹 (201) 3720
銀座松竹 (541) 1786
浅草松竹 (841) 2022
池袋松竹 (971) 1077
新宿松竹 (354) 2414
上野松竹 (831) 3136
渋谷松竹 (400) 1477
江東キンゲキ (631) 3121
蒲田ロキシー (738) 0010
川崎ロイヤル 044(233)9381
横浜松竹 045(261)2790



黄金の犬

総指揮 徳間康快
製作 西村敦行
原作 武村寿行
脚本 加藤 幸夫
監督 山根成之
監修 大野雄二
撮影 椎塚彰三
音楽 大野雄二
企画 大映映画株式会社
企画 株式会社徳間書店
音楽製作 徳間音楽工業株式会社
配給 松竹株式会社

菅原文子 夏木 勲 岡田英次 平田昭彦 小沢栄太郎 山谷 初 矢野 豊 福田 宣 福谷 直 誠三 上真一 待田 京介 加山 麗子 池 美ゆり子 山 玲子 ハナ 肇 藤 巻 潤 坂東 正之 森田 健作 宮下 順子 地井 武男 島田 陽子 鶴田 浩二

三田 佳子 特別出演
菅原 文子 特別出演

黄金の犬

徳間コミュニケーションズ第1回作品
徳間書店25周年記念作品
製作■大映映画株式会社
企画■株式会社徳間書店
音楽製作■徳間音楽工業株式会社
(オレンジハウス・レコード)
配給■松竹株式会社

●スタッフ

総指揮 徳間 康快
製作 西村 寿行
監督 根 成 之
原案 白根 依志夫
脚本 加藤 彰
撮影 大塚 雄二
音楽 野 雄二

●キャスト

安高則行(監視正)
鶴田 浩二
北守礼子
島田 陽子
永山勇吉(通産省課長)
夏木 勲
田沼良一(殺し屋)
地井 武男
水木守(警視庁刑事)
藤 巻 潤
倉田三郎(警視庁刑事)
森 田 健作
大橋忠夫(業界紙記者)
三 谷 昇
片瀬京子
三 田 佳子
片瀬洋次(京子の弟)
坂 東 正之助
永山順子(永山の妻)
池 玲子
遠沢要一(憲民党幹部)
小 沢 栄太郎
阿形秀平(通産省局長)
岡 田 英次
後藤俊介(遠沢の秘書)
待 田 京介
相沢貫(警察庁刑事局長)
平 田 昭彦
雨村本部長(鑑別所)
ハナ 肇
増田刑事(鑑別所)
誠 直也
加田吉子
宮 下 順子
平岡里美(東京の女子大生)
加 山 麗子
本田秋彦
福田 豊土
山 谷 初男
三上(八州組組員)
高 並 功
山 崎(ア)
原田船長
矢野 宣
矢野のママ
ひし美ゆり子
ダンブの運転手
菅 原文太

◆解説

現代は、混乱、不確実の時代と呼ばれています。それは、人間そのものに問題があるのではないかと、一瞬に自己破壊する若者、権力に盲従する者、体制の流れの中に自分を喪失していく者など……そんな現代に挑戦し、人間の誇りと真実を追究しようとするのが、本年度最高の娯楽話題作「黄金の犬」(原作西村寿行)です。

この作品は、徳間書店25周年記念作品として、徳間コミュニケーションズを構成している徳間書店、徳間音楽工業、大映映画が、夫々の分野で最高の機能を発揮すべく、原作、音楽、映画と三位一体の日本映画初の映画製作を行なうもので、全国一斉松竹系劇場で封切りされます。

映画「黄金の犬」は、主人を失った猟犬ゴロが、さい果ての地で失踪してきた通産省の武器課長の殺人を目撃した事から始まり、権力を駆使する政治家と陰の殺し屋、圧力にも執拗に捜査を追求する警視、そして犬を探し求める飼主の妻が、壮烈な帰巣本能で、北海道から津軽海峡を越えて日本列島を南へひた走るゴロが織りなす雄大かつ壮烈なドラマが展開されます。ハードなアクション、手に汗を流すサスペンス、絶望の淵に燃えるロマン、それにも増して、ゴロの度肝をぬくスリリングな活躍は、最高のエンターテイメントとして観る者を圧倒するでしょう。

総指揮徳間康快、製作西村寿行、脚本白根依志夫、加藤彰、監督山根成之、音楽大塚雄二、の日本映画を代表するベストスタッフが取り組み、出演俳優も鶴田浩二、島田陽子以下豪華スターが登場する79年最大の娯楽話題作です。

◆物語

北海道標別岳のふもとで、二人の男と猟犬ゴロが熊を待ち伏せしていた。とび出してきた熊は東京からゴロを連れてやってきた北守を襲った。北守は重傷を負った。ゴロの活躍で熊からは逃れ、ヘリコプターで帯広の病院に収容されたが事切れた。この騒動で、ゴロは飼主とはぐれ、強烈な本能の導くまま、東京を目指す旅に出発した。

厚岸近くの去来牛に疲労困憊して辿りついたゴロは、そこで一人の男に救われた。男の名前は永山雄吉。通産省武器課課長の職にある永山は上司、阿形局長の指示で某国へ軍艦の偽装輸出を認めたことを、業界紙記者大橋に嗅ぎつけられた、ゆずられた。その直後から殺し屋の影が永山と大橋にまといついた。妻子にも告げず、二人で北海道へ逃れたが、巨大な組織が彼等にもせまっていた。大橋は殺され、永山一人やつと逃れて、三ヶ月前にこの寒村に流れ着いて漁の下働をしながら日々を過ごしていた。首の鑑札から、単身ゴロが東京を目指しているのと知った永山は、その姿に打たれ、この数ヶ月におきた黒い謀略に身ぶるいを感じながらもゴロと一緒に東京の方向に旅立った。

人目をさけて逃亡生活を送る永山は、街角で東京の妻と子の無理心中のニュースを聞きうちのめされたが、ゴロの勇敢な生き方にはげまされて、殺し屋一味への復讐を誓い、阿形局長に証拠をもつて上京すると電話をした。

安高監視正は大橋殺害事件を担当することになったが、すこしも燃えなかった。東京の腕利き刑事だった安高の、北海道での上司雨村本部長は、ジリジリしていた。ところが、大橋殺害事件の兇弾が特殊拳銃「チェスカ」のものでたととると、安高は人気が変わったように行動を始めた。

永山とゴロは、殺し屋の目をさけて旅を続けた。野宿をしているとき、女子大生が三人の男に暴行されるのを、ゴロと一緒に救う。女子大生里美のたつての願いで、警察への被害届の証人となったために、永山とゴロの写真が新聞にのってしまふ。

ゴロの飼主北守の妻礼子は夫の不慮の死をきいて、せめて子供のようにな可愛いがっていたゴロだけでも……と探しに新聞社に駆け込んできた。安高も調査から大と旅する男を永山とみて新聞社にやってきた。

安高はゴロを求める礼子に同行を促して、青函連絡船に急ぐが、ひと足おそく、犬をつれた男は青森で下船したあとだった。

青森に渡った安高と礼子は波止場で二人組の男と犬をつれた男の喧嘩があったこと、そのとき犬に噛まれた二人組が船で逃れたこと……その段取りをしたのが大物政治家の秘書、後藤俊介であることを突きとめた。

折しも街は国政選挙のまっただなか。憲民党の大物遠沢要一の選挙事務所が青森市内にあった。安高は遠沢の選挙事務所に入り込み、秘書の後藤の任意同行を求めたが遠沢に選挙妨害だと言ひ掛りをつけられ追いさえされた。安高の鋭い予感では、事件の背後に遠沢のあることを確信した。

礼子は一人でゴロを追って、レンタカーで八甲田山方面に走ったが、殺し屋一味の手に捕われた。山小屋で身くるみ脱がされ、衣類をあたりの山野にまき散らされた。殺し屋一味はゴロを飼主の奥いでおびき寄せて、永山を消すつもりだった。

その時、東京をめざす永山とゴロも同じコースを急いでいた。ゴロはある臭いに異常に反応して山小屋までたどりついたが、礼子の臭いはそこでブツリと切れていた。

岩手県花巻市で、水におぼれている少女を助けた永山とゴロは、地元で話題となった。

少女の家で感謝のもてなしを受けている永山とゴロを、殺し屋田沼が嗅ぎ付けて乗り込んできた。「証拠のゴロを出せ」。永山はやつとこのことでゴロを逃すが、残酷な田沼の拳銃によって射殺された。

永山とも別れたゴロは、その後に出合った京子達の善意で、石巻港から船で東京に運ばれることになった。同じその船の一室には、田沼によってうしろ手錠にしばられた安高と礼子も乗せられていた。

政界汚職の証拠を持っているのが、一匹の犬のゴロだと知った田沼は苛立った。

田沼は手錠のままの安高の前で、礼子をもてあそんだ。

無念のまなざし、安高の耳に、ヘリコプターの爆音が近づく――

不安を感じて、つなげた皮ひもを食いちぎろうとするゴロ――

東京へと船足を早める北陸丸に、海上保安庁のヘリコプターがぐんぐん接近していた――。